

群馬県南西部において、ホラアナゴマオカチグサを再発見する

茂木 誠（群馬県立自然史博物館）

はじめに

群馬県内では東部と南西部の一部でしか生息が確認されていないホラアナゴマオカチグサを再発見したのでここで報告する。ホラアナゴマオカチグサは大きさが 2mm 程度の小さなカタツムリであり、石灰岩と暗闇を好み、洞穴内部で発見される生物である。群馬県内では 1970 年に神流町立処山にて発見され（高橋，1984），1971 年には群馬県東部でも発見されている（高橋，未公開資料）。また，当館設立にあわせ行われた 1996 年の県内生物の資料調査によって，これらとは別に 3 カ所の生息場所が明らかとなった（当館収蔵資料）。また，これらとは別に神流町叶山でも発見されているが，立処山と叶山では近年，本種の生息を確認できておらず，「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物の絶滅危惧 I 類」に指定されている（清水，2012）。これらの経過より，現時点での情報では，群馬県内での本種の発見は 20 年ぶりのこととなる。



図1 現地調査で発見したホラアナゴマオカチグサ



図2 ホラアナゴマオカチグサ

（目盛りの間隔は 1mm）

調査結果

現地調査では 2 個（死殻）を見つけた（図 1）。また，その周辺などの砂や泥を採集し，博物館内で顕微鏡を用い調べたところ 4 個（死殻）を発見（図 2），さらに生きている本種 2 匹を発見した。動画撮影を行ったのち，100 %エタノールに入れ標本とした。この状態ならば，後で遺伝子解析を行い，以後の研究につなげることが可能となるためである。

まとめと今後の課題

今回の報告では，発見報告ではあるが本種が絶滅危惧種のため，産地の詳細を記載しないこととした。今後は群馬県南西部地域，または県内の該当地域などにおいて，本種の生息調査を行うとともに，それぞれの地域に住む個体の関連性も論じられることが望まれる。

謝辞

今回のホラアナゴマオカチグサは，当館の学術調査を兼ねたイベント（大人の自然史倶楽部）活動の中で発見された。調査活動に参加した佐々木尚子さん（最初の発見者），北爪二郎氏，倉金秀行氏，藍原みよし氏，菅原久誠氏（当館学芸係），静野聡氏（当館教育普及係）には，この場を借りて深く感謝申し上げます。

引用文献

清水良治 (2012) : 群馬県の絶滅の恐れのある野生生物 動物編. pp. 251-273, 群馬県.

高橋茂 (1984) : 群馬県陸産および淡水産貝類目録. 上毛新聞社

ホラアナゴマオカチグサの動画は以下の場所でご覧いただけます。

●当館フェイスブック（2016年12月20日公開）

●ホラアナゴマオカチグサの動画が見られるアドレス

<https://www.facebook.com/1393846234272248/videos/1752576311732570/>

●QRコード



キーワード：ホラアナゴマオカチグサ，絶滅危惧種，絶滅危惧 I 類，群馬県